

施設名 [REDACTED]
管内区域 [REDACTED]

①困難を抱える児童生徒が多く特別な配慮を必要とする管内の状況の変化

○ [REDACTED]

②取り組みの現状と課題

○ 各校における生徒指導に関して

各学校においては本市の生徒指導の基本方針である「先手の生徒指導」に心がけ、様々な取り組みを行ってきた。まず、教師の意識改革を図り、「生徒指導実践の3つの理念の確立と確認」、つまり①機動性(機敏な処置)、②組織性(教職員全員の組織的な動き)、③指導(理念)性(教職員がしっかりとした方針・理念を持つ)を徹底している。また、基本的な“型”の指導、すなわち“しつけ”指導に重点をおくとともに、豊かな“心”の涵養を図るべく「心の教育」に力を入れている。その成果もあって、大半の子どもたちは心豊かに育ってくれているが、重い課題のある家庭(保護者)の子どもについては、その連携の困難さから十分な対応ができず、より非行に発展していくケースも少なくない現状にある。よって、様々な人とのつながりを重視する本事業が果たす役割は、大変大きいと考える。

③今回計画の方針等

- 古い観念に囚われた子育てではなく、自立に向け全人的な成長を促す養育の大切さを啓発する。
- 保護者、児童、生徒がともに活動でき、豊かな心を涵養できるプログラムを設定し、親子の絆を深める。

事業の内容

名称	「 [REDACTED] 」
対象	[REDACTED] 保護者、教職員、児童、生徒
内容 (テーマ)	<ul style="list-style-type: none">・ 生きる力を身に付けるためにあるべき子育ての姿について保護者の意識を高める。 ○子育てや教育全般に関する研修会・ 親子で芸術に秀でた方に考え方や生き方を学び、自分の人生を高めるとともに、作品を鑑賞し、感動を共有することで豊かな心を培い、親子の絆を深める。 ○親子体験活動
参加者	約800人(約580人)
実施場所	[REDACTED] 等
開催期間	平成19年5月1日 ~ 平成20年2月20日
開催時間	延べ6時間
事業実施後に期待すること	<ul style="list-style-type: none">○ 研修会を通じて子育てに関わる意識の向上が図れ、親子の絆を深めることができる。○ 学習・体験活動を行うことで、子どもたちの職業観が開拓され、自らの生き方や将来を展望する資質を涵養することができる。

平成19年度 子どもを支える人権のまちづくり促進事業実績書

[教育指導課分]

施設名 [] 等

管内区域 []

①困難を抱える児童生徒が多く特別な配慮を必要とする管内の現状の変化

○ []

②取り組みの成果

○ 各校における生徒指導に関して

・各学校においては本市の生徒指導の基本方針である「先手の生徒指導」に心がけ、様々な取り組みを行ってきた。まず、教師の意識改革を図り、「生徒指導実践の3つの理念の確立と確認」、つまり①機動性(機敏な処置)、②組織性(教職員全員の組織的な動き)、③指導(理念)性(教職員がしっかりとした方針・理念を持つ)を徹底してきた。また、基本的な“型”の指導、すなわち“しつけ”指導に重点をおくとともに、豊かな“心”の涵養を図るべく「心の教育」に力を入れてきた。その成果もあって、大半の子どもたちは心豊かに育っていてくれるが、重い課題のある家庭(保護者)の子どもについては、その連携の困難さから十分な対応ができず、より非行に発展していくケースも少なくない現状にある。よって、様々な人とのつながりを重視する本事業が果たす役割は、大変大きいと考える。

○ [] に関して

・ふれあい勉強会を実施することで、様々な人と関わることができ、自らの生き方や将来を親子で考える機会となった。
 ・保護者、児童、生徒がともに活動することで、親子の絆を深めることができた。

③今後の方針等

- 保護者、生徒がともに活動できるプログラムを設定し、親子の絆を涵養する。
- 地域の人材やボランティアの協力を求め、様々な年齢の人々とのふれあいを通じて、自分が多くの人に支えられた存在であることを理解させ、自らの生き方や将来を考える機会とする。

事業の内容

名称	「 [] 」
対象	[] 小学生高学年・中学生
内容 (テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ [] 等で学習・体験活動を行うことで、自らのあるべき生き方を考え、将来を展望する資質を涵養する。 ○ 休暇中にふれあい勉強会を実施する。(大学生や退職教員、その他協力いただける方々による) ・ 親子で職業観や勤労観について学び、語ることで親子の絆を深める。 ○ 様々な職業の方に話を聞くことで、親子でも将来の夢(含む将来の職)を語り、未来図を設ける。(個性、つまり子どもの良さを互いに見いだすことで親子の絆を涵養する)
参加者	約450人(約380人)
実施場所	[] 等
開催期間	平成19年5月1日 ~ 平成20年2月20日
開催時間	延べ60時間
事業実施後に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会を通じて自らの生き方について考えたり、親子の絆を深めたりすることができる。 ○ 学習・体験活動を行うことで、子どもたちの職業観が涵養でき、自らのあるべき生き方を考え、将来を展望する資質を涵養することができる。

平成19年度 子どもを支える人権のまちづくり促進事業実績書

【教育指導課分】

施設名 [] 等
管内区域 []

①困難を抱える児童生徒が多く特別な配慮を必要とする管内の現状の変化

- []
- []

②取り組みの成果

- 各校における生徒指導に関して
 - ・ 各学校においては本市の生徒指導の基本方針である「先手の生徒指導」に心がけ、様々な取り組みを行ってきた。まず、教師の意識改革を図り、「生徒指導実践の3つの理念の確立と確認」、つまり①機動性(機敏な処置)、②組織性(教職員全員の組織的な動き)、③指導(理念)性(教職員がしっかりとした方針・理念を持つ)を徹底してきた。また、基本的な“型”の指導、すなわち“しつけ”指導に重点をおくとともに、豊かな“心”の涵養を図るべく「心の教育」に力を入れてきた。その成果もあって、大半の子どもたちは心豊かに育っていているが、重い課題のある家庭(保護者)の子どもについては、その連携の困難さから十分な対応ができず、より非行に発展していくケースも少なくない現状にある。よって、様々な人とのつながりを重視する本事業が果たす役割は、大変大きいと考える。
- [] に関して
 - ・ ふれあい勉強会を実施することで、様々な人と関わることができ、自らの生き方や将来を親子で考える機会となった。
 - ・ 先輩に学ぶ会では、進路に関する情報が得られ、親子で将来について語るなど親子の絆を深めることができた。

③今回計画の方針等

- 保護者、生徒がともに活動できるプログラムを設定し、親子の絆を涵養する。
- 地域の人材やボランティアの協力を求め、様々な年齢の人々とのふれあいを通じて、自分が多くの人に支えられた存在であることを理解させ、自らの生き方や将来を考える機会とする。

事業の内容

名称	「 [] 」
対象	[] 小学生高学年・中学生
内容(テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ [] 等で学習・体験活動を行うことで、自らのあるべき生き方を考え、将来を展望する資質を涵養する。 ○ テーマ1・・・先輩に学ぶ会実施([] 卒業生で社会人になって活躍している方の話を聞き職業に対する厳しさを知る。) ○ テーマ2・・・親子で将来の夢(含む将来の職)を語り、未来図を設計する。(個性、つまり子どもの良さを互いに見いだすことで親子の絆を涵養する) ○ テーマ3・・・休暇中にふれあい勉強会を実施する。(大学生や退職教員、その他協力いただける方々による)
参加者	1000名(900名)
実施場所	[] 等
開催期間	平成19年7月20日 ~ 平成20年1月10日
開催時間	延べ 100時間
事業実施後による成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験学習を通じて、豊かな心の育成が図れたり、親子の絆を深めることができた。 ○ 学習・体験活動を行うことで、子どもたちの職業観が涵養でき、自らのあるべき生き方を考え、将来を展望する資質を涵養することができた。

平成19年度 子どもを支える人権のまちづくり促進事業実績書

[教育指導課分]

施設名 [] 等
管内区域 []

① 困難を抱える児童生徒が多く特別な配慮を必要とする管内の状況の現状の変化

- []
- []

② 取り組みの成果

- 各校における生徒指導に関して
 - ・ 各学校においては本市の生徒指導の基本方針である「先手の生徒指導」に心がけ、様々な取り組みを行ってきた。まず、教師の意識改革を図り、「生徒指導実践の3つの理念の確立と確認」、つまり①機動性(機敏な処置)、②組織性(教職員全員の組織的な動き)、③指導(理念)性(教職員がしっかりとした方針・理念を持つ)を徹底してきた。また、基本的な“型”の指導、すなわち“しつけ”指導に重点をおくとともに、豊かな“心”の涵養を図るべく「心の教育」に力を入れてきた。その成果もあって、大半の子どもたちは心豊かに育っていているが、重い課題のある家庭(保護者)の子どもについては、その連携の困難さから十分な対応ができなかったこともあり、より非行に発展していくケースもわずかだがあった。そんな中で、様々な人とのつながりを重視する本事業が果たす役割は、大きい。
- 「[]」に関して
 - ・ 特別支援教育を推進している現場の先生に1年間の指導の実際を具体的に講演していただいた。学期ごとの小さなスパンで教材をどう工夫していったか、仲間づくりの視点をどう設定したか等具体的な話で、保護者や教職員の特別支援の見方を深めていくことができた。
 - ・ ふれあい勉強会を実施することで、様々な人と関わることができ、自らの生き方や将来を親子で考える機会となった。

③ 今後の方針等

- 保護者の傾向として子育てに関心が高いがゆえに我が子中心になり、学力一辺倒な考えに偏りがちであるため、自立に向け全人的な成長を促す養育の大事さを啓発する。
- 地域の人材やボランティアの協力を求め、様々な年齢の人々とのふれあいを通じて、自分が多くの人に支えられた存在であることを理解させ、自らの生き方や将来を考える機会とする。

事業の内容

名称	[]
対象	[] 保護者、教職員 児童、生徒
内容(テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ []等で学習・体験活動を行うことで自らの生き方を考え、将来を展望する資質を養う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい学習会 ・ 生きる力を身に付けるためにあるべき子育ての姿等について保護者、教職員の意識を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ○子育てや教育全般に関する研修会
参加者	250人
実施場所	[] 等
開催期間	平成19年7月 1日 ~ 平成20年 2月 13日
開催時間	延べ 6 時間
事業実施による成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会を通して特別支援教育に関わる意識の向上が図れた。 ○ 学習・体験活動を行うことで、子どもたちが自らのあるべき生き方を考え、将来を展望する資質を涵養することができた。

様式第2-1号 (第8条関係) 平成19年度子どもを支える人権のまちづくり促進事業実績書 (総括表)

市町村名 長浜市

(単位:円)

事業区分	事業(集会等)の名称	事業費の内訳							計	
		報償費	旅費	消耗品費	印刷製本費	通信運搬費	保険料	雑役務費		使用料及び賃借料
		45,933	0	80,075	27,300	0	9,336	0	247,200	409,844
	事業	200,000								200,000
		52,674								52,674
		130,000							25,600	155,600
	合計	428,607	0	80,075	27,300	0	9,336	0	272,800	818,118